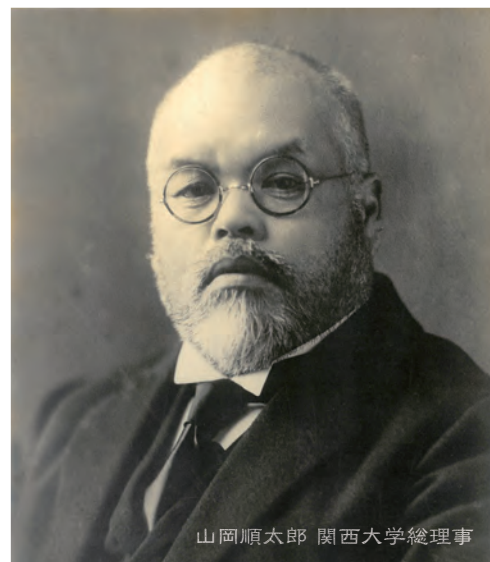


学の100 実化

GAKU-NO-JITSUGE : *Harmony between Academia & Society*

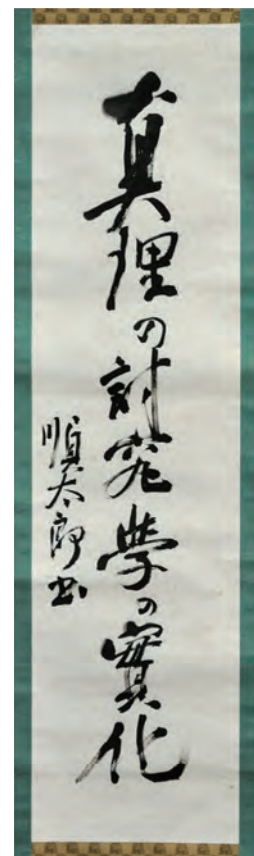
学理と実際との調和

関西大学が大学令により大学昇格を果たした1922(大正11)年、大阪財界の重鎮で実業家でもあった、総理事・山岡順太郎(1866~1928年)は、新しい大学の指導理念として「学の実化」を提唱しました。以来、「学の実化」は、本学の教育研究活動の理念、いわゆる学是として、100年が経った現在も本学の進むべき方向を指し示す羅針盤として重要な役割を果たしています。



山岡順太郎 関西大学総理事

(写真:個人蔵)



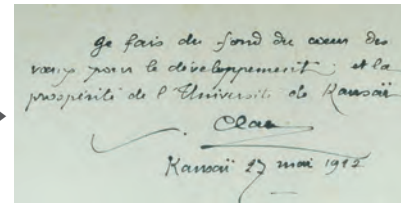
大学関係者と記念撮影におさまるポール・クロードル大使(前列左から5人目。左隣は山岡総理事)

●関西大学の学是「学の実化」

2022年、関西大学は大学昇格100年、学是「学の実化」提唱100年を迎えました。100年前から関西大学が大切に、これからも変わらず継承されていく「学の実化」。

大学昇格100年を機に開催した2022年版「学の実化」講座を通じて、「学の実化」とはどのようなものか、どのように実社会とつながっているのか――。

「学の実化」講座の最終回講師を務めた、パナソニックホールディングス株式会社の大坪文雄特別顧問にお話を伺い、大坪特別顧問による各回の講座レポートとともに、「学の実化」の意義や現代的展開を考えます。



ポール・クロードル大使の来学記念揮毫



予科校舎で講演するポール・クロードル大使

“「学の実化」とは”

大学は教育研究に実社会の知識や経験を取り入れ、社会は大学の学術研究の成果を取り入れることによって、「学理と実際との調和」を求めると考え方

“「学の実化」の4本柱”

1. 学理と実際との調和
2. 国際的精神の涵養
3. 外国語学習の必要
4. 体育の奨励

“100年前の「学の実化」講座”

1922(大正11)年から1927(昭和2)年までの間、「学の実化」の根幹である「学理と実際との調和」をテーマとした「学の実化」講座が計33回開催されました。

本講座は、大学の教育に実社会の知識や経験を取り入れる「大学の社会化」の具体的な方法として展開され、関西大学の学生を対象に、各界の第一線で活躍する講師が、最新の世界情勢や政治、経済、教育、外交その他さまざまな分野にわたる講演を行いました。

第1回はポール・クロードル(駐日フランス大使)が「フランス語について」と題して講演。各国の大使や公使、領事など外国人講師は10人にのぼり、日本人では、犬養毅(衆議院議員)、中橋徳五郎(前文部大臣)、後藤新平(元内務大臣)、関一(大阪市長)などが登壇しました。

“「学の実化」講座の現代的展開”

2022年、大学昇格100年事業の一環として、「学理と実際との調和」という理念を現代社会に問う」をコンセプトに、「学の実化」講座を95年ぶりに復活しました。

講師には、実社会において「学の実化」を実践し、第一線で活躍する著名人を招き、全5回・計651人の関大生らが対面・オンラインで参加。講座は講師と参加者による対話方式で、熱いディスカッションが繰り返されました。

回	日程	講師/テーマ
第1回	3月16日	國部 毅 氏(株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役会長) 「時代の一步先へ～変化の時代に求められる金融の役割とリーダー像～」
第2回	5月11日	江連 裕子 氏(セント・フォース所属 経済キャスター) 「これが私の生きる道」
第3回	7月 6日	山川 景子 氏(イヴレス株式会社 代表取締役/CEO) 「人生100年時代の学びとは ～若者から見た日本の未来予想図をともに考える～」
第4回	9月28日	玉岡 かおる 氏(作家、大阪芸術大学教授) 「女性たちの『学の実化』人生に生かされる学びをつかみとった人々」
第5回	11月29日	大坪 文雄 氏(パナソニックホールディングス株式会社 特別顧問) 「みんなで考えるガバナンス」

■「学の実化」講座特集

◎「学の実化」講座・講師 大坪文雄氏に聞く

学理と実際を融合し、 自分の人生を生きる学びを



大坪 文雄

・パナソニックホールディングス株式会社 特別顧問
学校法人関西大学理事(関西大学大学院工学研究科修了)

◆私にとっての「学の実化」、それぞれの「学の実化」

— 学生時代、「学の実化」にまつわるエピソードはありますか。
工学研究科修士課程の頃、自分で一から設計図を描いて、実験に必要な測定装置を専門業者に発注したことがありました。装置は問題なく完成でき、図面に間違いはなかったのですが、ご指導いただいていた先生から、「コストがかかりすぎて、これでは企業では話にならない」と指摘されました。私の実験には高い精度が要求されたので、図面のあちこちに±0.1ミリ単位の細かい精度設定を入れた結果、加工コストが膨らんでしまったのです。大学では図面で合格点をもらえても、社会に出れば0点という話です。大学で学ぶ知識、それは社会で役立つ知識と一体化して初めて「生きる知識」になるものだと、当時私は理解しました。

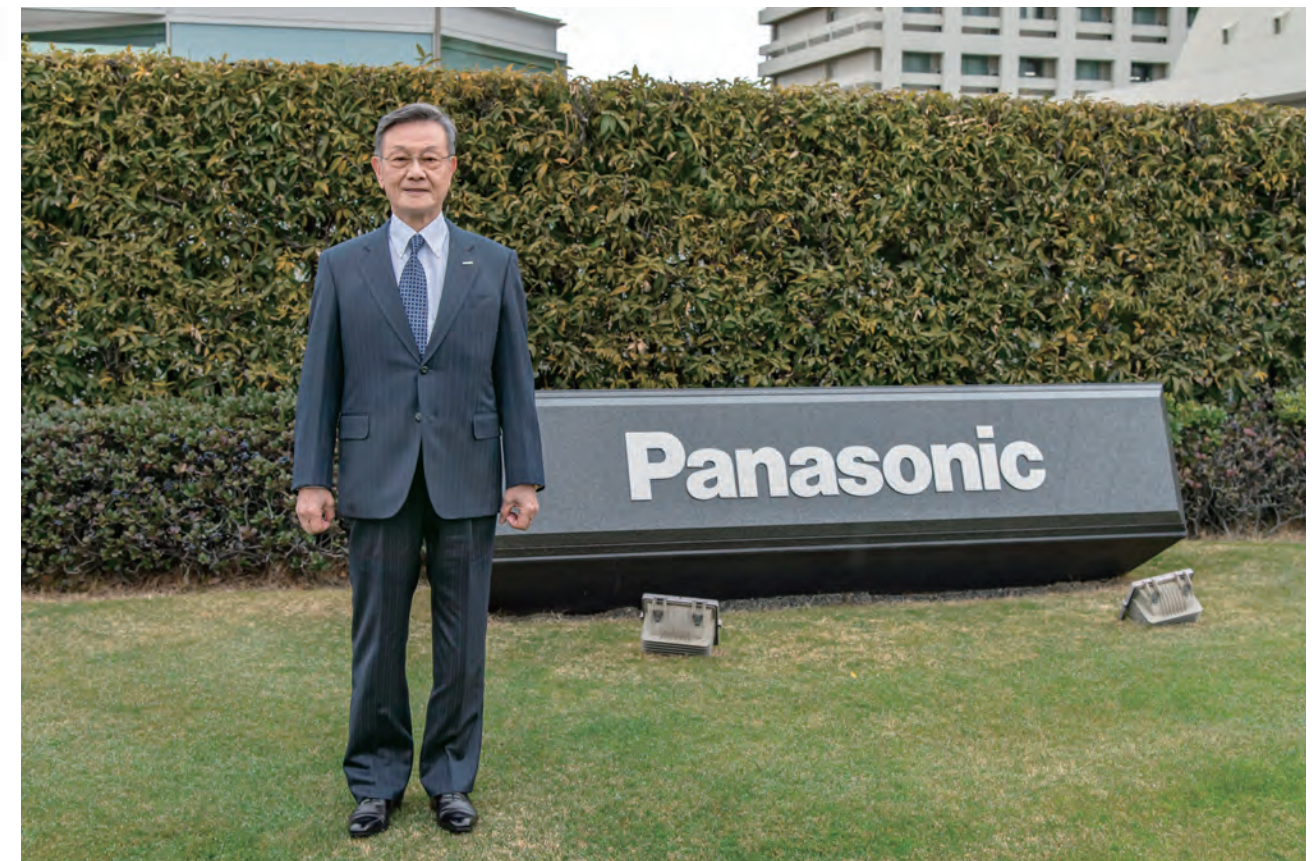
「学の実化」という言葉を関西大学の大学昇格100年を機に、改めて私も意識するようになりましたが、学生の頃は「学の実化」とは何かと考えることも、意識しながら学ぶこともありませんでした。しかし振り返ればまさに「学の実化」となる体験をしていたのだと感じています。

— 卒業生にとって、「学の実化」はどんな存在だと考えていますか。
「学の実化」は一つの理念、考え方であって、個人あるいは組織が経験し、感じ取るものだと思います。大学昇格100年など節目の時に振り返ることで、十分意義があるのではないのでしょうか。

私がビジネスの現場で最も意識していた言葉は、東京大学の藤本隆宏先生の「表の競争力と裏の競争力」です。製造業という表の競争力は、売上高や利益率、ブランド力、環境への取り組みなど本社の経営。裏の競争力は、物的生産性や製造品質、生産リードタイムなど、日本の昔からの強みである生産現場のパフォーマンス。企業経営では、双方の競争力が表裏一体となって力を発揮する必要がありますが、これはまさに学理と社会の実際との一体を目指す「学の実化」と同じ原理だと思います。

— 関西大学が「学の実化」を長く大切にしてきたことをどのように思われますか。

大学であれ企業であれ、組織には学是や経営理念、行動指針など、組織を支える背骨となるものが重要です。組織が長く継続すれば、時代の流れに合わせて、社会情勢も技術も、そして価値観も変化していく。しかし、その時に起こる社会のさまざまな変化に右往左往してはいけません。たとえ時代や環境が変わっても、目指すべき方向を示してくれる指針、道しるべがあれば、進むべき道へしっかりと歩んでいける。そういった意味で、100年もの間学是を継承してきたことは誇るべきこと。逆に言えば、学是があったからこそ大学が存在してきたとも言えるのではないのでしょうか。



◆「学の実化」を実践する講師の考動に学ぶ

— 「学の実化」講座の全体的な印象をお聞かせください。

すべての回に参加しましたが、講師の方々のお話には重みがあり、私自身改めて学ぶところが多々ありました。特に印象的だったのは、全5回の講座を通じて女性の参加者数、女性からの質問や発言が多かったこと。講師も2〜4回目は女性の方で、今回の講座はある意味、日本における女性の活躍を反映したものになっていました。「学の実化」を実践する講師の体験的なお話から、自己の役割を確立することの重要性、個々の多様性を認める大切さを参加者は学ぶことができたのではないのでしょうか。最近の言葉でいえば、DE&I(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)を打ち出したことは成果だったと思います。

第4回講師の玉岡かおるさんが、奈良時代の女性天皇・孝謙天皇をはじめ女性の活躍を紹介する中でおっしゃった「人生を生きる学びをつかみ取った」という言葉が、「学の実化」をうまく表現されていると感じました。

◆「学の実化」による経験が人生の財産に

— 大学に期待される役割、関西大学に期待されることはありますか。

日本の今の豊かさ、この平和な社会を維持向上させるには、あらゆる人的資本・資源を融合し、生産性や効率性を高めていかなければならないでしょう。人材を育成する大学と、経済力を生み出す産業界は、相互に理解し合い、協力していく必要があります。

キーワードは「学の実化」で日本復活。産学の連携にあたって、学理と実際の融合を目指す「学の実化」の理念は、両者のシナジー効果を強力に発揮させるでしょう。

そして国力の維持には、健全な中間層の存在が欠かせません。教育は国力の源。我が国を支える厚い中間層を育てることも、大学にとって必要な役割だと考えています。ただし、今に満足し、維持するだけの中間層では、やがて衰退していく。特に関西大学には、現状を変革しようという気概にあふれた人材を輩出する大学であってほしいと願っています。

個人的には、2025年の大阪・関西万博の成功と、それを契機とした大阪や関西地区の発展を期待しています。世界の国々や企業はどのような未来像を描き、社会課題を解決しようとしているのか。学生や教職員、卒業生もぜひ万博を体験し、次の100年に向けて取り組むべきことを見つけ出してほしい。そして世界的な課題解決のため、関西大学の学是「学の実化」がどう活用できるのかを示し、実践する活動をしてけると期待しています。

— 関大生、若者たちにメッセージをお願いします。

若い人には、「内向きになるな、外に目を向ける」と伝えたいですね。そのためにできるだけ多くの人と交流することを意識してほしい。我々が学生だった頃と違って、身近に外国人留学生もたくさんいます。異文化や異なる価値観を受け入れ、もし課題があれば、解決法を見出す努力を経験してほしい。大学時代の経験は「学の実化」を通して、貴重な人生の財産となります。目を、心を、外に向け、ぜひ人生を生きる学びをつかみ取ってください。

「学の実化」講座特集

◎大坪文雄氏による講座レポート

第1回
学の実化講座

「時代の一步先へ ~変化の時代に求められる金融の役割とリーダー像~」

◎株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役会長 國部 毅 氏 — Takeshi Kumibe



現在を激動の時代とされ、この時代における教育の重要点と自社の理念実現のポイントは同様であることを示され、「学の実化」という理念の時代適合性を指摘された。

そして三井住友フィナンシャルグループというメガ金融機関でも、危機感を持っていろいろな構造変化対応や環境変化先取りの事業展開戦略に取り組んでいる事例を説明され、さらにこの様な時代に求められるリーダー像に関してリーダーが持つべきメンタリティや経営トップの役割も具体的に見解を述べられた。

まとめればメガ金融機関といえども現在の激動する時代環境や経営環境に対して、大きな危機感と変革意識が不可欠であることを明示されたと言える。

第2回へのつながり 大変革の時代という問題認識のもと、巨大金融機関が環境変化にどう対応しようとし、同時にリーダーの持つべき心構えなどを明示され、そのモットーは「正々堂々」であった。では「正々堂々」の姿勢で変革の時代に取り組む個人としての事例は無いのか。その答えが第2回であった。

Profile

■1976年東京大学経済学部卒業。同年株式会社住友銀行入行。1982年ペンシルバニア大学ウォートン・スクールにてMBA取得。2003年株式会社三井住友銀行執行役員、2006年常務執行役員、2009年専務執行役員。リーマンショック後の混乱のなか、約2兆円の増資による財務基盤の強化、日興コーディアル証券(現SMBG日興証券)の買収を主導。2011年三井住友銀行頭取兼最高執行役員。2017年株式会社三井住友フィナンシャルグループ社長兼グループCEO就任。2019年4月から現職。2013年度、2016年度全国銀行協会会長、2016年~2020年日本経済団体連合会副会長、2020年~2021年内閣官房成長戦略会議有識者などを歴任。現在は、2025年日本国際博覧会協会副会長、水素バリューチェーン推進協議会共同会長、関西大学経営審議会有識者などを務める。



第2回
学の実化講座

「これが私の生きる道」

◎セント・フォース所属 経済キャスター 江連 裕子 氏 — Yuko Ezure



ご自身はキャスターに憧れを持たれていた。学生時代から夢見たキャスターになるために挫折や失敗を繰り返しながらもあきらめなかった。そしてキャスターという仕事の中でレッドオーシャン(競争が激しい)ではないブルーオーシャン(競争が少ない)と考えた、経済キャスターに夢の実現を絞られた。必須である金融関連の勉強は意識して継続。

結果として自分の代わりがいつでもいることがない、自分がオンリーワンの存在になることが出来、それがいろいろな分野での活躍につながったとの経験であった。

まとめれば自分の夢や希望を実現するにはその分野のブルーオーシャンを見出すことが重要であるということである。

第3回へのつながり 自分がやりたいことや夢を実現するにはあきらめずに努力することはもちろんであるが、実現のためのブルーオーシャンを見出すことも重要である。自分にとって競争優位分野を見いだせれば成功に近づく。では具体的に一歩を踏み出すにはどうすればよいのか。その事例が第3回の講演に示された。

Profile

■大学時にセント・フォースに所属しフリーアナウンサーとしてスタート。TBSでニュースキャスターを担当しながら大学院に進学し経済学修士を取得。フジテレビ、テレビ東京、KPMG税理士法人を経て、日本経済新聞社グループ・経済専門チャンネル日経CNBCで最年少メインキャスターに就任し9年間続けると同時に、テレビ東京、ラジオNIKKEI等の経済番組も担当。海外での生活を経験し帰国後、東証一部上場の株式会社グルメ材屋社外取締役就任。その後、財務会計コンサルティング会社である株式会社エスネットワークス社外取締役、株式会社乃が美ホールディングス監査等委員を兼務。広報アドバイザーや公益財団法人の理事も担当。



第3回
学の実化講座

「人生100年時代の学びとは ~若者から見た日本の未来予想図をともに考える~」

◎イヴレス株式会社 代表取締役/CEO 山川 景子 氏 — Keiko Yamakawa



学生時代から起業に興味を持たれていた。ライターや編集者として国内外を取材旅行する中での気付き、ひらめきとなったことの一つが海外のホテルの備品や調度品の持つ素敵な空間づくりであった。そのような価値を持つ宿泊施設向けのオーダーメイドの備品を日本のおもてなしに加えたいと考え、イヴレスを起業された。その成功の中でモノからホスピタリティ事業に拡大することにつながった。

自分がやりたいこと、好きなことを確認して、そして着実に行動することが人生100年時代に必要であるということであった。

第4回へのつながり 日々のいろいろな経験から、ふとした気付きがあり、その実現を目指して起業したということである。学生時代から起業を意識していればこそその成功と言える。

第2回の江連さんと同様に自分のやりたい事や夢を意識して、大変な努力をして実現された事例である。特に山川さんは女性の起業家が珍しい時代である。得意分野を絞った江連さんともども女性活躍の面でも時代を切り開いた方と言える。女性活躍と言えども日本の国家的な課題である。第2回、3回と続いた女性の成功は稀なことであるのかどうか。その答えが第4回の講演に示された。

Profile

■大阪府出身。大阪モード学園を経て在阪ミニコミ出版社入社。1990年編集プロダクション設立。1998年イヴレスに社名変更、ホテル・旅館関連事業専門会社に。2015年~女性活躍リーディングカンパニーに認定。2016年「ヒノキリボン」でグッドデザイン賞受賞、2020年おもてなしセレクション金賞受賞。2018年イヴレスホスピタリティ設立、ホテル運営受託事業開始。スモールラグジュアリー施設3件、都市型ホテル開業。2021年東京証券取引所TOKYO PRO Marketに上場、EY Winning Women 2021ファイナリスト受賞。著書に「イヴレスの仕事~名前の無いカタチ・肩書の無いデザイン~」「イヴレススタイル/しつらえの美学」など。メディアにも多数出演。日本インテリアデザイン協会賛助会員、日本デザイン振興会賛助会員。福祉とデザインへの社会貢献にも着手。



第4回
学の実化講座

「女性たちの『学の実化』 人生に生かされる学びをつかみとった人々」

◎作家、大阪芸術大学教授 玉岡 かおる 氏 — Kaoru Tamaoka



生涯学習の時代と言われる。それは学びを血肉にして社会で行動に結び付けることであると指摘された。特に女性で活躍した方々、古くは奈良時代の女帝から近代の女性経営者まで数名の方を紹介された。それぞれの女性は高度な教育を受けて実学を身に付けた方もいれば現場で学び、現場で覚えた方もいる。日本でも古くから活躍した女性がいることを紹介された。

特に近代の日本では、後に続く女性が不自由をしないよう新たな学びの門戸を開いた事例を紹介された。恵まれた学びの場が与えられている現在の学生へのエールをもって締めくくられた。

第5回へのつながり 日本の大きな課題はジェンダーギャップを無くすことである。少子高齢化、人口減少の時代にあって女性の力を十分に発揮する事が日本の復活には不可欠である。第2回、第3回の女性キャスターや経営者のような活躍をさらに大きな流れとしていくことが極めて重要である。第4回で、歴史を見れば古くから女性の中にも国家の君主や経営者として活躍した方がいて、その人たちは人生に生かせる学びをつかみ取っており、まさに学の実化の実践そのものである。それではいろいろな夢の実現を、大小さまざまな組織で実践していくにはどのようなことを考えなければならないのか。それが第5回の講演につながっていた。

Profile

■作家。大阪芸術大学教授。大阪市博物館機構理事。神戸女学院大学卒業。1989年神戸文学賞受賞作「夢喰い魚のブルー・グッドバイ」(新潮社)で文壇デビュー、15万部のベストセラーとなる。「天平の女帝 孝謙称徳」(新潮社)、「虹、つどうべし 別所一族ご無念御留」(幻冬舎)など年に1冊のペースで作品を送り出し、著書多数。舞台化、TVドラマ化された「お家さん」(新潮社)で第25回織田作之助賞受賞。行政でも理事等を歴任。2020年、2021年文部科学大臣表彰受賞。近著「姫君の賦—千姫流—」(PHP研究所)は作曲家池辺晋一郎氏によってオペラ化。観世流シテ方十世片山九郎右衛門氏のために書き下ろした新作能「媽祖」を、2022年京都観世会館にて上演。最新刊「帆船 北前船を馳せた男・工業松右衛門」(新潮社)で第41回新田次郎文学賞、第16回船橋聖一文学賞を受賞。



「学の実化」講座特集

◎大坪文雄氏による講座レポート

第5回
学の実化講座

「みんなで考えるガバナンス」

◎パナソニックホールディングス株式会社 特別顧問 大坪 文雄 氏 — Fumio Otsubo



ガバナンスは主に大企業向けの言葉であり、企業統治と訳されている。その厳密且つ詳細な内容は別として、考え方はあらゆる組織に適用可能である。ガバナンスの目指すところは法令順守に則ったうえで、組織の価値向上を目指すことである。

次に、なぜガバナンスが必要かを最近の企業や大学の不祥事例を取り上げて具体的に説明した。さらに日本全体の国力の低下が著しい事例データを取り上げ、それを打破するためのガバナンス改革へと話を進めた。改革の基本は村社会、村意識の排除と多様性が生み出す相乗効果であるとした。特に社外役員を持つ外部の目、異なる価値観が重要であることや、コンプライアンスとガバナンスの関係を示す事例も紹介された。さらに利益と社会貢献の関係やそれを評価するESG投資が説明された。最後に事業や組織にはライフサイクルがあり、それとガバナンスの関係図が紹介された。

総括 「学の実化」という学は時代を超える指針であることが明確になった。巨大企業でも中堅企業でもあるいは個人的な仕事でも、さらにはあらゆる組織でも自社や自分の強みを磨き、発揮して夢や理想を根気よく追及することは共通しているといえる。同時に何を成し遂げるにも自社、自分だけの力では成しえない。多くの知恵、経験、知の蓄積を活用することが不可欠である。

それらをすべて包含する言葉として「学の実化」がある。大学で蓄積される知識、理論や知恵と、社会で実際に解決されるべき課題を大学と企業などの組織が相互理解し、それぞれの強い点を活用しあえればより良い社会、より元気な日本への復活も可能となる。学の実化は誰もが肝に銘じるべき言葉であることが確認された記念講座であった。

Profile

■1945年9月大阪府生まれ。1969年関西大学工学部管理工学科卒業。1971年関西大学大学院工学研究科修士課程修了。同年松下電器産業株式会社入社。1987年11月オーディオ・ビデオ本部新規事業開発室開発工場長。1989年1月シンガポール松下無線機器株式会社社長。1995年7月オーディオ事業部長。1998年6月取締役・AVC社副社長。2000年6月常務取締役。2003年6月代表取締役専務・パナソニックAVCネットワークス社社長。2006年6月代表取締役社長。2012年6月代表取締役社長。2013年6月より現職。日本生命保険相互会社評議委員。



「学の実化」講座を終えて

◎関西大学 学長 前田 裕



95年ぶりとなる「学の実化」講座の復活を構想したとき、世の中はまさにコロナ禍の真っ只中でした。昇格100周年の記念とすべく、また、遠隔授業の連続や自由の効かない学生生活で疲弊する学生を励ますべく、講師と学生が双方向に対話する「白熱教室」にしようと、大坪文雄先生と記念事業実行委員会の思いは一致しました。そして、コロナ禍の波を縫うように、全5回とも対面での開催(オンラインも併用)ができたことはとても幸いなことでした。

講師は、まさに現代社会の第一線で活躍されている方ばかりで、社会の最前線での出来事、まさに「学の実化」を実現した好事例についてリアリティをもってお話しいただきました。毎回、講師と学生が対話を重ねるなかで、学生が自身の人生のためにどこに向かっていくべきか、いま何をなすべきかといった貴重な示唆を得たものと考えます。講演終了後も、学生からのメール質問にすべて答えていただいた講師もいらっしゃいました。単なる講演にとどまらず、学生との対話にも注力いただいた講師の皆さんに改めて御礼を申し上げます。とりわけ全5回に対面参加いただき、本号に講座レポートをお書きいただいた大坪文雄先生にも深く感謝いたします。

関西大学の起業支援

「学の実化」を形に。アントレプレナーシップを養成

働き方や生き方が多様化する今、関西大学ではスタートアップ支援やアントレプレナーシップ(起業家精神)を醸成する活動を通じ、起業家もしくは起業家のように考動する人材の育成に取り組んでいます。

1 授業科目・学部での取り組み

●起業に学ぶ「考動力」入門(関大出身起業家と考える未来の自分)

本学卒業の起業家を講師に、事例を通じて、事業を起こし、継続する上で必要な基礎的な知識、資質・能力を学びます。

●起業に学ぶ「考動力」実践(企業と考える未来のデザイン)

企業と連携してプロジェクト学習を行います。より実践的な「考動力」と「革新力」を身に付けます。

●次世代の後継者のための経営学

一般社団法人ベンチャー型事業承継と連携し、実家が家業を営んでいる学生が、家業の経営資源で開発する新規事業について学ぶ科目を開講しています。

●関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC

本学商学部主催、企業や自治体が協賛するコンペティションで、全国の大学生や高校生からベンチャービジネスプランを募集しています。

3 梅田キャンパス

●HACK-Academy

起業のプロセスの経験や企業のプロジェクへの参加、最新技術の社会実装化、ビジネススキルの習得など、大学卒業後に生かせるプログラム、セミナーを提供しています。

●スタートアップカフェ大阪

起業支援経験の豊富な金融機関の起業アドバイザーや士業(弁護士・税理士・司法書士・弁理士等)が、起業相談に応じて、各種イベントを随時行っています。

●山岡塾

大学昇格100周年を機に創設した山岡塾では、100名を超える応募者から31名を第1期塾生として選抜。教職員や校友等から専門的な助言や支援を受け、社会的課題の解決に向けて実践的に取り組みました。3月4日の最終報告会では、計6チームから、それぞれが設定した課題(フードロスや中小企業が抱える問題等)の解決に向けた活動状況が報告されました。

2 イノベーション創生センター



●イノベーターズトーク

学生の起業マインドを醸成することを目的に、ビジネスの第一線で活躍中の若手起業家を招き、学生と交流するトークイベントを開催しています。

●企業見学会

先進的な取り組みや事業展開を行う企業を訪問・見学し、社員の方と社内起業や新規事業の立ち上げなどについてディスカッションを行います。

●ビジネスアイデアコンテスト「SFinX」

本学の最先端技術や研究成果をテーマに、学生からビジネスアイデアを募集するコンテスト。社会科学、自然科学などの学問分野を融合し、新しいビジネスを提案します。

●Mission Lounge

起業や新しいことに関心のある学生が集まる、イノベーション創生センター公認学生コミュニティ。情報交換の場として、80名を超える学生がメンバー登録しています。

●INPIT 大阪府知財総合支援窓口(臨時窓口) in 関西大学

知的財産に関する課題について、弁護士や知財戦略エキスパート等の専門家に相談することができます。大学に設置されたのは本学が初めての事例です。

●ものづくり支援・共創窓口

Garage Minato、Garage Taishoとの連携協力協定に基づき、起業に向けたプロトタイプ製作や実証実験の実施などについて相談できる窓口を定期的に設置しています。

●関西大学GAPプログラム(KUGAP)

本学の研究成果をもとに起業や事業化を目指す専任教育職員・大学院生に対して、研究と事業化の間のギャップを埋めるためのPoC(概念実証)取得、プロトタイプ製作、実証実験、市場調査などに対し助成を行うとともに、支援人材による伴走支援を実施しています。

●関西大学起業資金支援制度

学生および専任教育職員が立ち上げるベンチャー企業を対象に起業時の必要資金などの支援を行う本学独自の制度です。

●伴走支援

研究シーズの発掘による関大発ベンチャーの創出と成長支援のための担当URA(リサーチ・アドミニストレーター)を配置し、事業化に向け伴走支援を行います。